

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610125340		
法人名	医療法人東洋病院		
事業所名	グループホーム千寿園		
所在地	徳島市北島田町1丁目126-6		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「健康・笑顔・地域の中で絆と信頼を築く千寿園」の理念の下、スタッフ全員が利用者全員に安心して穏やかな生活が送れるよう努力している。  
利用者一人一人のADLの低下、認知症の進行によるレベル低下など考慮し個別のリハビリも取り入れ残存能力の保持にも取り組んでいる。  
職員は親しみを込め家族の様に接すると共に利用者の尊厳や人格を尊重する介護に努力している。同一法人の運営する医療機関や施設があり、急変時などは24時間対応可能な体制になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、理念に掲げている「健康・笑顔地域の中で絆と信頼を築く」を実践すべく、創設時の管理者と職員が一丸となって、個々のケースに合わせたケアに従事している。職員の内部研修会は、病院と合同で毎月テーマごとに開催しており、認知症ケアや医療安全等多くの学ぶ機会が設けられている。運営推進会議も活発で、出席者の中には、以前、利用していた家族がそのまま継続的に出席しているなど、親しみやすい関係を築きながら意見を運営に反映している。病院と連携が密であり、医療面の対応は勿論、災害時対応や地域との様々な交流行事、学生ボランティアに至るまで相互の協力体制を構築しており、利用者・家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースの何か所かに理念を掲示している。集団レクの最後に利用者・職員で唱和している。地域との交流行事や家族様参加の行事についても理念にそったサービスが出来る様努力している。	事業所では、地域密着型サービスの役割を踏まえた理念を掲げ、毎年、理念と基本方針を見直している。毎日のレクリエーション後、職員と利用者がともに理念を唱和している。事務所やロビーに理念を掲げ、職員が共有しケア実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園との交流会を約二ヶ月に一回行っている。看護学生や医学生とのふれあい実習もある。 同一法人の運営する病院・施設合同の地域住民参加の秋祭りにも参加している。	事業所には定期的に、地元の保育園児や学生ボランティア等の来訪があり、利用者と交流を図っている。また、同一法人の運営する医療機関と合同で開催する秋祭りは、多くの地域住民が参加し、地域とのふれあいの場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人主催の秋祭りなどの行事に参加し近隣住民、法人施設利用者や家族様との交流を行い介護相談も行っている。 園内行事の際、認知症キャラバンの講習会を実施し理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を利用者や家族、地域の代表者、包括支援サービス担当者の出席にて開催している。ホームの状況報告や情報交換、又頂いた助言や意見はサービスに繋げる様になっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。多くの利用者や家族、地域の代表者、行政担当者、病院連携室、職員等の出席を得ている。防犯上の対応対策等、双方向的に意見交換を行い、運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実績報告や運営推進会議議事録は定期的に徳島市に提出。介護保険制度改定時などは適切なアドバイスを受けている。	行政担当者には、運営推進会議への出席の際に、事業所の取り組みや、利用者の生活状況を伝えている。対応が困難な事例については、細かく相談をしている。特に、法改正がある年度には、問い合わせをしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ホール共に開錠して利用者が圧迫感や閉塞感を感じることを無い様に配慮している。帰宅願望の強い利用者に対しては職員と共に散歩に行き気分転換を図り心身ともに拘束にならないケアを実施。	2か月に1回程度、事業所は、身体拘束をしないケアの研修会を同一法人の運営する医療機関と合同で開催している。研修は、現場の職員の目線でQ&A方式で行い、全職員で取り組んでいる。玄関は、防犯上夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会・勉強会の実施。 管理者及び職員間で意見交換を行ない虐待防止に対する意識を徹底すると共に身体チェック等を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員、事業所において成年後見人制度についての講習会に参加。また、園内行事の時、家族様対象にも講習会を行った。入所された利用者が成年後見人制度を利用される事もあり説明し対応出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に関しては理解しやすい様に説明し、改定時にはその都度説明し署名捺印をもらっている。また、その後生じた疑問等については随時文書にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置し随時受け付けている。家族の来訪時に意見や希望を聞くようにしている。話しやすい環境作りを心がけている。又意見等は、職員間で検討し結果を家族に報告している。	職員は、利用者一人ひとりとの日頃の関わりのなかから意見や要望を把握するよう努めている。家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努め、玄関には意見箱を設置して意見を聞いている。利用者や家族から出された意見は、職員で共有しサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回勉強会を行い職員全員と意見交換や提案出来る機会をもっている。問題発生時はすみやかに管理者に相談でき対応できている。職員一人ひとりの力量と個性を生かし働く意欲やサービスの質の向上に繋げている。	管理者は、日頃の業務や月1回の職員勉強会で時間を設け、職員の意見や提案の把握に努めている。意見や提案は、職員間で共有し、運営面へ反映している。事業所には、申し送りノートがあり全職員で現状を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の個性や性格を把握し力量や経験実績を発揮出来、資格取得など法人内の勉強会に参加出来る様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修会や勉強会への参加を奨励し技術や知識の向上に努めている。接遇やクレーム処理等の講習会にも参加し施設職員としての知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護医療型医療施設・通所リハビリテーション事業所・短期入所生活介護事業所との交流を図り定期的に事例検討会を行い交流を図るためにグループディスカッションにて意見の交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族様と一緒にホームでの生活状況の説明を行ったり、ホーム内を案内して不安要素の減少に務めている。無理なく共同生活に入れる様要望等も聞いている。希望者には体験入所も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には見学をしてもらったり質問に応じる機会を設け不安な事や要望を聞いている。今までの生活環境や習慣・性格を聞きサービス内容の説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・他のサービス事業所等から生活暦等の情報提供を受け、本人・家族様の要望等を把握しサービスの計画 又、入所後生活の変化に応じた新しいサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクやゲーム等への参加を促したり、日常生活の手伝いを依頼し一緒に会話しながら楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な千寿園だよりによるホームでの生活状況の報告をすると共に行事の参加を依頼している。行事は年間2～3回「運動会・敬老会・秋まつり」等、家族様と利用者で各居室にて食事の提供や職員との歓談、ゲームの参加。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で愛用していた物や衣類を使用。秋祭りや運動会に近隣の方を誘い参加。他施設に入院・入所している連れ合いにスタッフと共に会いに行ける様に援助。	事業所では、家族の協力を得た上で、行きつけの理・美容院の利用や墓参りを支援している。また、同一法人の運営するデイサービスを馴染みの友人が利用する際には、利用者が気軽に面会できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやゲームへの参加を促し利用者同士が声を掛け合い参加が出来る様な環境作り。日中ロビーで過ごす際に職員を交えつつ利用者同士が関わり合えるような環境。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院された場合には出来る限り面会に行き、相談や支援に努めている。家族様等の相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者とかかわりの中で会話や表情に着目し希望や意向の把握に努めその人らしい暮らしが送れる様に支援。また支援が困難な方は、家族様から情報を得たり職員間で話し合い検討。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの意向や希望を把握するように努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族から性格や生活歴の情報を得ながら、一人ひとりの状態に合わせた、本人本位の支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の過ごし方や職員との係わりを通じて本人に合ったサービス内容を検討し実施。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や趣味心身状態Ⅱ応じた手伝いの依頼。お花の好きな方は鉢植えの手入れ、料理の好きな方は野菜の選別、折り紙や色塗り等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが継続出来るよう自立支援に向けてチームでケアプランを作成。3か月に1回見直し月に1回のモニタリング実施。また日頃介護業務の中で異変や気付きを大切にし対応策を随時検討。	事業所では、利用者がその人らしく暮らし続けるための話し合いを行い介護計画を作成している。月1回、モニタリングを行い、3か月に1回、介護計画の見直しを行っている。特に 利用者の心身状況の変化がある際や入退院時には介護計画を必ず見直し、再度作成をし、現状に即した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録、業務日誌の申し送りにて情報共有。認知症の進行に伴う暴言や暴行への対応レベル低下に対するケアの実践等その都度話し合い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩等は出来るだけ個々に行っている。食事に関してもその人その人の形態に合わせて対応している。また 利用者の体調や気分に応じた生活が行える様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人主催の地域参加型の「秋祭り」に参加したり近隣保育園との交流。近隣の住民や保育園児また定期的な学生さんとのふれあい実習により気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的受診、かかりつけ医の説明も受けられる様支援。かかりつけ薬局、病院へ報告。他科受診も利用者家族様の希望に添えるように支援。	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。月2回、協力医療機関からの受診も支援している。また、家族の協力を得て、専門科の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、体調の変化等に関しては連携看護師に報告、速やかに対応が出来る様にしている。また受診が必要な場合も速やかに援助。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の急変時、入院等が必要な場合は介護サマリー、ホームでの生活状態やADL等の報告を文書にて行い入院中に不安等にならない様に援助。また早期退院後のケアが安全に行える様に情報提供。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針や同意書を契約時に本人家族様の同意を得ている。段階ごとに、本人や家族様の意向を確認し、かかりつけ医や関係者と相談し、対応方針の共有に取り組んで情報が蜜に共有出来る様にチームで取り組んでいる。	契約時の段階で、本人や家族に、重度化や終末期の事業所の支援のあり方について説明を文書で行っている。利用者の心身状況の変化に応じて、利用者や家族、主治医、看護職員等のチームで情報を共有・連携し、対応している。また、職員研修では、ターミナルケアや酸素取り扱い手法の研修会を実施するなど、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・勉強会等を実施しその際問題等が見られる場合は、随時フィードバックを行い改善。救命講習の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防協力を得た上で法人全体による防火訓練に参加、また初期消火や避難訓練等に利用者や地域住民も参加。又勉強会の際に誘導方法や場所など詳細をスタッフ間で話し合い直した時は落ち着いて出来る様している。	年2回、地域住民や消防署の参加を得て総合訓練を実施している。また、様々な災害想定を行い、同一法人が運営する医療機関と合同訓練を実施し、協力体制を構築している。事業所の避難経路には何も荷物を置かないことを徹底したり、避難場所の表示を誰もが見やすい箇所に掲示したりして、工夫している。備蓄品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを侵害しない様心がけている。トイレや入浴も介助の方法や時間など配慮。同姓がよい利用者等の要望にも出来る限り対応。	職員は、利用者一人ひとりへの言葉づかいや利用者の気持ちを大切に考えた自尊心を損ねることのないケア行動を心がけている。特に、トイレや入浴時には、プライバシーに配慮したさりげない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えの出来ない方に対しては表情の変化や行動等に注意し介護記録に記入し職員間で話し合い対応。介助時に拒否があっても時間をずらしたり職員を交代し対応。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを元に利用者にあった生活が出来るよう、趣味等本人希望に添って支援。要望があれば検討し変更。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣替えをしており季節感が無い利用者には職員が声をかけ一緒に衣類を交換。行事では家族様が持って来た衣類やお気に入りのものを着用。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キザミ食やミキサー食の介助ではメニューや食材を説明。メニューは利用者の好みや意見を取り入れながら法人の栄養士と相談し決定。	事業所では、利用者と職員で食卓を囲んでいる。献立は、同一法人の運営する病院の管理栄養士と相談して栄養バランスや季節感に配慮した献立としている。職員は、利用者の食事量や水分量の把握に努めている。利用者には、おぼん拭きなどの役割を担ってもらうよう働きかけ、生活の実感を得てもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し食事量が少ないときなどは高カロリー食を用いたり好きな食べ物の提供にて対応。水分制限のある方は個別にチェック表を作成し外来受診時に提出。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声かけており一人で難しい方は援助している。夜間は義歯を預かり義歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方も日中トイレ誘導を積極的にして排泄の自立を支援。夜間もトイレ希望の方は誘導し、レベルや状態に合わせて個別に対応。また失禁等が見られた時でも本人の自尊心に配慮している。	職員は、利用者の排泄チェック表を活用して一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行いながら、排泄の自立支援を行っている。夜間帯は、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行い、利用者が安心して排泄をできるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の回数は職員が管理しており、便秘の方には坐薬や内服にてコントロールしている。便秘予防の為、牛乳やヨーグルトを摂取しレクやゲーム等で運動している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3～4回の入浴を行っているが本人の体調に合わせて清拭や入浴日を変更している。拒否のある方は時間をずらしたり利用者の気持ちを優先している。	週3～4回は、利用者の希望や体調に合わせて入浴することができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを変える工夫を行っている。また、失禁時にはシャワー浴等の臨機応変なケアを行い、自尊心を損ねることのないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるが本人のペースで眠られている。夜間不眠の方は日中出来るだけ起きてもらいレクや散歩等行い夜間寝れるよう支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理している。服薬時の名前確認、服薬後の口腔内チェック。体調変化があれば報告し指示を仰いでいる。定期薬や臨時薬も薬局からのチェック表を元に管理。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団レクに積極的に参加されたり個別ごとの洗濯たたみや日記等毎日行っている。「フラワーアレンジメント」「折り紙」「色塗り」「カレンダー」等毎月行い季節毎の行事も楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日の散歩や個人的な買い物等行なっている。又、家族との外出や外食も本人希望に応じている。外出が難しい方も家族が定期的に面会に来られている。	利用者は、日常的に事業所近辺の神社や敷地内を気軽に散歩に出かけており、自由な外出を支援している。また、車椅子の利用者も職員と一緒に散歩に出かけたり、同一法人の運営する病院での開催イベントに参加したりしている。食事や買い物などの外出には、家族の協力体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じ小銭を所持している方もおられスタッフと共に自動販売機に好きな飲み物を買いに çıkかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話はいつでもかけられるよう支援している。話したい相手が電話に出れるよう職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や季節感のある物を、ホール壁には利用者の作品や写真を掲示し、テレビ前にはソファや畳コーナーを設けており利用者同士が過ごせるようにしている。また窓は開放にし空気の入替えを行い感染予防にも注意している。	共用空間のホールの窓からは、暖かい太陽光が差し込み、清潔感がある。廊下の壁面には、季節を感じる利用者の作品や行事写真を飾っている。利用者が居心地良く過ごせるよう、ソファや畳コーナーを配置している。定期的に玄関や窓を開けて事業所内の換気を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブル3ヶ所、ソファを設け作業やゲーム、フラワーアレンジメント等思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは施設の物を使用している。希望に応じ布団や毛布等は自宅で使用していた物を持参しテレビや衣装ケース等も持参。また定期的にクローゼットやタンス内の整理整頓を行い夏場と冬場はベッド位置移動もしている。	利用者の居室には、使い慣れた家具や家電、衣装ケースを持ち込んでもらっている。居心地よく過ごせるよう、趣味の作品や家族の写真を飾っている。利用者が使い勝手の良いようにベッドやタンスの配置に配慮するなどの環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、階段等に手すりを設置しており安全に歩行が出来る様にしている。また、車椅子での自走や杖歩行も自由に出る環境作りを工夫している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースの何か所かに理念を掲示している。集団レクの最後に利用者・職員で唱和している。地域との交流行事や家族様参加の行事についても理念にそったサービスが出来る様努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園との交流会を約二ヶ月に一回行っている。看護学生や医学生とのふれあい実習もある。 同一法人の運営する病院・施設合同の地域住民参加の秋祭りにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人主催の秋祭りなどの行事に参加し近隣住民、法人施設利用者や家族様との交流を行い介護相談も行っている。 園内行事の際、認知症キャラバンの講習会を実施し理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を利用者や家族、地域の代表者、包括支援サービス担当者の出席にて開催している。ホームの状況報告や情報交換、又頂いた助言や意見はサービスに繋げる様にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実績報告や運営推進会議議事録は定期的に徳島市に提出。介護保険制度改定時などは適切なアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ホール共に開錠して利用者が圧迫感や閉塞感を感じる事の無い様に配慮している。帰宅願望の強い利用者に対しては職員と共に散歩に行き気分転換を図り心身ともに拘束にならないケアを実施。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会・勉強会の実施。 管理者及び職員間で意見交換を行ない虐待防止に対する意識を徹底すると共に身体チェック等を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員、事業所において成年後見人制度についての講習会に参加。また、園内行事の時、家族様対象にも講習会を行った。入所された利用者が成年後見人制度を利用される事もあり説明し対応出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に関しては理解しやすい様に説明し、改定時にはその都度説明し署名捺印をもらっている。また、その後生じた疑問等については随時文書にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置し随時受け付けしている。家族の来訪時に意見や希望を聞くようにしている。話しやすい環境作りを心がけている。又意見等は、職員間で検討し結果を家族に報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回勉強会を行い職員全員と意見交換や提案出来る機会をもっている。問題発生時はすみやかに管理者に相談でき対応できている。職員一人ひとりの力量と個性を生かし働く意欲やサービスの質の向上に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の個性や性格を把握し力量や経験実績を發揮出来、資格取得など法人内の勉強会に参加出来る様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修会や勉強会への参加を奨励し技術や知識の向上に努めている。接遇やクレーム処理等の講習会にも参加し施設職員としての知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護医療型医療施設・通所リハビリテーション事業所・短期入所生活介護事業所との交流を図り定期的に事例検討会を行い交流を図るためにグループディスカッションにて意見の交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族様と一緒にホームでの生活状況の説明を行ったり、ホーム内を案内して不安要素の減少に務めている。無理なく共同生活に入れる様要望等も聞いている。希望者には体験入所も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には見学をしてもらったり質問に応じる機会を設け不安な事や要望を聞いている。今までの生活環境や習慣・性格を聞きサービス内容の説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・他のサービス事業所等から生活暦等の情報提供を受け、本人・家族様の要望等を把握しサービスの計画 又、入所後生活の変化に応じた新しいサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクやゲーム等への参加を促したり、日常生活の手伝いを依頼し一緒に会話しながら楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な千寿園だよりによるホームでの生活状況の報告をすると共に行事の参加を依頼している。行事は年間2～3回「運動会・敬老会・秋まつり」等、家族様と利用者で各居室にて食事の提供や職員との歓談、ゲームの参加。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で愛用していた物や衣類を使用。秋祭りや運動会に近隣の方を誘い参加。他施設に入院・入所している連れ合いにスタッフと共に会いに行ける様に援助。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやゲームへの参加を促し利用者同士が声を掛け合い参加が出来る様な環境作り。日中ロビーで過ごす際に職員を交えつつ利用者同士が関わり合えるような環境。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院された場合には出来る限り面会に行き、相談や支援に努めている。家族様等の相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者とかかわりの中で会話や表情に着目し希望や意向の把握に努めその人らしい暮らしが送れる様に支援。また支援が困難な方は、家族様から情報を得たり職員間で話し合い検討。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の過ごし方や職員との係わりを通じて本人に合ったサービス内容を検討し実施。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や趣味心身状態Ⅱ応じた手伝いの依頼。お花の好きな方は鉢植えの手入れ、料理の好きな方は野菜の選別、折り紙や色塗り等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが継続出来るよう自立支援に向けてチームでケアプランを作成。3ヵ月に1回見直し月に1回のモニタリング実施。また日頃介護業務の中で異変や気付きを大切にし対応策を随時検討。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録、業務日誌の申し送りにて情報共有。認知症の進行に伴う暴言や暴行への対応レベル低下に対するケアの実践等その都度話し合い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩等は出来るだけ個々に行っている。食事に関してもその人その人の形態に合わせて対応している。また 利用者の体調や気分に応じた生活が行える様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりょう 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人主催の地域参加型の「秋祭り」に参加したり近隣保育園との交流。近隣の住民や保育園児また定期的な学生さんとのふれあい実習により気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的受診、かかりつけ医の説明等も受けられる様支援。かかりつけ薬局、病院へ報告。他科受診も利用者家族様の希望に添えるように支援。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、体調の変化等に関しては連携看護師に報告、速やかに対応が出来る様にしている。また受診が必要な場合も速やかに援助。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の急変時、入院等が必要な場合は介護サマリー、ホームでの生活状態やADL等の報告を文書にて行い入院中に不安等にならない様に援助。また早期退院後のケアが安全に行える様に情報提供。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針や同意書を契約時に本人家族様の同意を得ている。段階ごとに、本人や家族様の意向を確認し、かかりつけ医や関係者と相談し、対応方針の共有に取り組んで情報が密に共有出来る様にチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・勉強会等を実施しその際問題等が見られる場合は、随時フィードバックを行い改善。救命講習の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防協力を得た上で法人全体による防火訓練に参加、また初期消火や避難訓練等に利用者や地域住民も参加。又勉強会の際に誘導方法や場所など詳細をスタッフ間で話し合い直面した時は落ち着いて出来る様している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを侵害しない様心がけている。トイレや入浴も介助の方法や時間など配慮。同姓がよい利用者等の要望にも出来る限り対応。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えの出来ない方に対しては表情の変化や行動等に注意し介護記録に記入し職員間で話し合い対応。介助時に拒否があっても時間をずらしたり職員を交代し対応。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを元に利用者に合った生活が出来るよう、趣味等本人希望に添って支援。要望があれば検討し変更。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣替えをしており季節感が無い利用者には職員が声をかけ一緒に衣類を交換。行事では家族様が持って来た衣類やお気に入りのものを着用。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キザミ食やミキサー食の介助ではメニューや食材を説明。メニューは利用者の好みや意見を取り入れながら法人の栄養士と相談し決定。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し食事量が少ないときなどは高カロリー食を用いたり好きな食べ物の提供にて対応。水分制限のある方は個別にチェック表を作成し外来受診時に提出。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声かけており一人で難しい方は援助している。夜間は義歯を預かり義歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方も日中トイレ誘導を積極的に行って排泄の自立を支援。夜間もトイレ希望の方は誘導し、レベルや状態に合わせて個別に対応。また失禁等が見られた時でも本人の自尊心に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の回数は職員が管理しており、便秘の方には坐薬や内服にてコントロールしている。便秘予防の為、牛乳やヨーグルトを摂取しレクやゲーム等で運動している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3~4回の入浴を行っているが本人の体調に合わせて清拭や入浴日を変更している。拒否のある方は時間をずらしたり利用者の気持ちを優先している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるが本人のペースで眠られている。夜間不眠の方は日中出来るだけ起きてもらいレクや散歩等行い夜間寝れるよう支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理している。服薬時の名前確認、服薬後の口腔内チェック。体調変化があれば報告し指示を仰いでいる。定期薬や臨時薬も薬局からのチェック表を元に管理。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団レクに積極的に参加されたり個別ごとの洗濯たたみや日記等毎日行っている。「フラワーアレンジメント」「折り紙」「色塗り」「カレンダー」等毎月行い季節毎の行事も楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日の散歩や個人的な買い物等行なっている。又、家族との外出や外食も本人希望に応じている。外出が難しい方も家族が定期的に面会に来られている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じ小銭を所持している方もおられスタッフと共に自動販売機に好きな飲み物を買いに外かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話はいつでもかけられるよう支援している。話したい相手が電話に出れるよう職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や季節感のある物を、ホール壁には利用者の作品や写真を掲示し、テレビ前にはソファや畳コーナーを設けており利用者同士が過ごせるようにしている。また窓は開放にし空気の入れ替えを行い感染予防にも注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブル3ヶ所、ソファを設け作業やゲーム、フラワーアレンジメント等思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは施設の物を使用している。希望に応じ布団や毛布等は自宅で使用していた物を持参しテレビや衣装ケース等も持参。また定期的にクローゼットやタンス内の整理整頓を行い夏場と冬場はベット位置移動もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、階段等に手すりを設置しており安全に歩行が出来る様にしている。また、車椅子での自走や杖歩行も自由に出来る環境作りを工夫している。		